中間追肥は秋落のもと

分ケツ多く茎・葉が弱まる

「苗田をほめる馬鹿もある。云う諺の生れは草出来・葉の色だけを考え、除草のたびに追肥をやって、苗の良いのを鼎走したところからきたものだが、最近の稲作では元肥を主とし、その年の天候を見て穂肥をやる方法が理論的にも確立されている。

元肥をやった後は穂肥まで追肥をやらないことである。元肥と穂肥の間に追肥をやると、草出来ばかりして人工的秋落となる。どうして秋落ちをするかというと、早生月上旬頃には穂となる茎が殆んどできて終う。だから、この時期から穂肥の時期（出穂前二十五日）までの間に分ケツ穂になり、肥料を余分に食うほかない。そして稈伏の原因となる光も風通も悪る茎や葉が弱くなる。茎葉の成分が多くなると致されたチッソが不消化のまま残され、これがイモチ病・菌核病などの病気を出すようなものである。穂付揃数・品質・肥料の三要項と生地・天候を考合わせて自己の技術操作が秋落を防ぐカギとなる訳である。（普及事務所）

中間追肥は金を使って病気を出すようなものである。

田植え最盛期

苗出来上乗

本年は一般に種蒔きが平年並の苗代技術の改善と天候に恵まれて、苗の出来は良好で、分けつ活発に移植上乗。田植えは播種期に比べて苗代日数を多くして、平年並の五月二十五、六日頃から始まり最盛期は西部地帯は五月二十八、九日、東部地帯は六月五、六日頃だった。

玉葱の収穫期が近づいたが、収穫後の発芽をおさえて長期の貯蔵にたえるために薬剤M・H（ヒドラジット）の使用が最近盛んになって来ている。取扱いは次の要領で行うことが大切。

○濃度（水一斗当薬液）二・八匁

玉ネギ貯蔵に農薬M・Hを

収穫一、二週間前に撒布

○・二五%　七・〇匁

の間で反当六・六カ至一石を撒布

○時期

玉葱が倒伏し始めてから全部倒伏するまでの間（収穫前一、二週間の間）

撒布してから二日間は雨にあわせないこと。

展着剤を必ず加用すること。（農政事務所）

水稲多収穫共進会

申込み6月30日まで

食糧増産運動の一環として、終合耕種技術の普及と収量向上を期し、農業経営の安定を図る目的で昭和三十年度水稲多収穫共進会を市主催で次の要領によって開催されるから各農家奮っての参加が期待されている。

参加資格

水田三反歩以上の耕作者

農家で出品田を反付実面積一反歩以上、長方形又は短形三反歩以上、巾は三間以上、畝数は三枚以内が反面に接続していること。

尺以上の通水路を挟まず各筆同一品種で同一耕作

田植も終って三番草を除く頃からホッポール及びパラチオン剤の散布使用が盛んになってくるが、二化螟虫脳除をして卓効ある一方中毒患者や生命を断つ事故も多く起っているので、これが使用は充分注意すること。

特に弱い体質の人は、その毒性と取扱上の注意を厳重に守ること。

毒性のあらまし

この殺虫剤は原料について、口から入っても呼吸器から吸収されても中毒を起す。

漂度の高いもの　経皮吸収が強く、特に高温時は最も危く、水和剤、粉剤の順に毒力は低下する。口から入った場合は最も少量でも中毒する。皮膚については多く石鹸で除く頃からホッポール及びパラチオン剤の散布使用が盛んになってくるが、二化螟虫脳除をして卓効ある一方中毒患者や生命を断つ事故も多く起っているので、これが使用は充分注意すること。

特に弱い体質の人は、その毒性と取扱上の注意を厳重に守ること。

毒性のあらまし

この殺虫剤は原料について、口から入っても呼吸器から吸収されても中毒を起す。

漂度の高いもの　経皮吸収が強く、特に高温時は最も危く、水和剤、粉剤の順に毒力は低下する。口から入った